

岩手県内における医療資源の地域格差および施設紹介会社の関わりに関する実態調査 結果サマリー

調査実施：2026年5月案内先：病院77施設・会員105名有効回答：91件

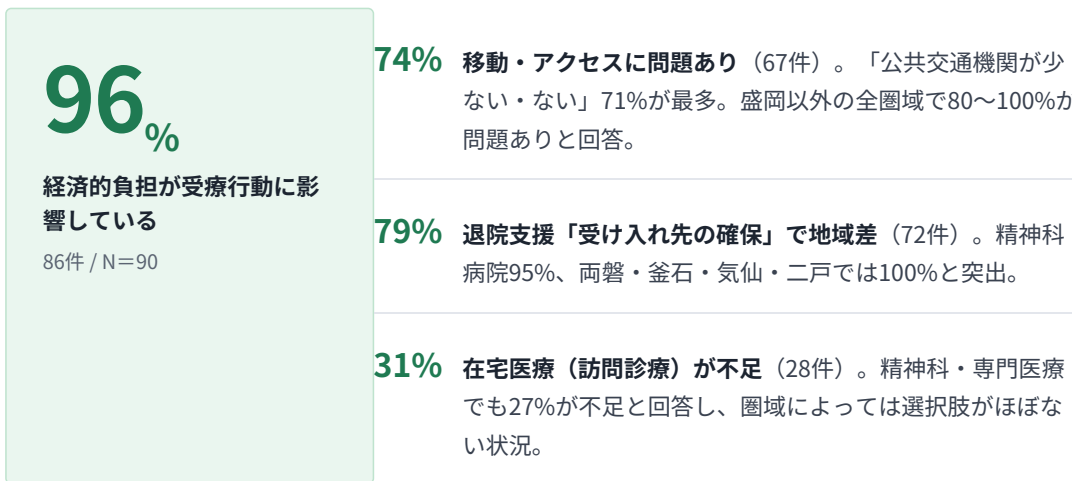
本調査は岩手県医療ソーシャルワーカー協会調査研究部会が実施したもので、岩手県内の病院に勤務するソーシャルワーカーおよび協会会員（病院勤務以外の方を含む）を対象としています。

「医療資源の地域格差」と「施設紹介会社の関わりと倫理的課題」の2つのテーマについて実態を把握し、協会として取り組むべき課題を明確にすることを目的としています。

91件 有効回答数	8圏域 回答があった医療圏	67% 経験10年以上のSW	2テーマ 調査した課題領域
--------------	------------------	-------------------	------------------

テーマ1 医療資源の地域格差

充足状況・アクセス障壁・経済的負担・退院支援における地域差



不足している医療資源・支援が難しいケース（自由記述Q15・記述あり34件）

訪問診療・在宅医療		7件（21%）
精神科医療・専門医療		5件（15%）
身寄りなし・キーパーソン不在への支援		5件（15%）
訪問看護・訪問リハビリ（特にST）		4件（12%）
医療的ケア児・重症心身障害児の受け入れ先		3件（9%）

自由記述（Q15）に記述のあった34件中の件数・割合です。複数の課題に言及した回答も含みます。

91%

紹介会社を利用しない・ほ
ぼしない

83件 / N=91

79% 所属機関に紹介業者のルールが「ない・不明」（72件）。
整備が進んでいない実態が明らかに。

49% COI研修が「未受講・不明」（45件）。一般病院51%・精
神科53%。受講済みでも「3年以上前」が27%と最多。

56% 高住連のリベート禁止を「知らなかった」（51件）。精神
科74%・福祉介護89%と認知が特に低い。

協会に期待する支援（Q23・複数選択・N=91）

県内の実態報告と事例紹介		59%（54件）
県内医療機関向けガイドラインの作成		56%（51件）
倫理・利益相反研修の開催		45%（41件）
匿名相談窓口の設置		13%（12件）
特にない		11%（10件）

高齢者住まい事業者団体連合会（高住連）＝高齢者向け住まいに関する業界団体。以下「高住連」と表記。 リベート
＝患者紹介の見返りとして紹介会社等から金品を受け取る行為。 COI＝利益相反（Conflict of Interest）。専門職とし
ての判断に個人的・組織的な利益が影響しうる状態。

調査研究部会による考察

本調査は初回の実態把握であり、以下は現時点で読み取れる傾向を整理したものです。

1 医療資源の地域格差の実態と、継続的な把握・共有の必要性

在宅医療・訪問系サービスの不足は県内各地で指摘され、圏域によっては選択肢がほぼない状況がうかがえた。実態を継続的に把握し、圏域を越えて共有していく取り組みが、今後の課題として示唆される。

2 施設紹介会社との関わりと、機関内ルールの現状

所属機関内に紹介業者に関するルールがない・不明なケースが79%に上った。利用自体は少ないものの、判断の拠り所となる基準が十分に共有されていない状況がうかがえる。今後さらに実態を掘り下げて検討していく必要がある。

3 倫理に関する知識・研修機会の現状

COI研修の未受講・不明が49%、高住連規定の認知も56%が「知らなかった」と回答。令和8年3月の医療ソーシャルワーカー業務指針改訂も踏まえ、倫理に関する知識や研修機会の現状が一つの論点として浮かび上がった。

本調査で得られた知見をもとに、今後さらに調査・検討を深めたうえで、協会としての具体的な取り組みにつなげていくことが期待されます。

調査対象について

本調査は岩手県医療ソーシャルワーカー協会が単独で実施したものです。案内先は岩手県内のソーシャルワーカーが在籍する病院77施設および協会会員105名であり、有効回答数は91件でした。回答者は一般病院・精神科病院・福祉介護施設に勤務する方からの回答が含まれます。回答者の所属団体は調査項目に含まれていないため、他団体との重複加入の有無は把握していません。

詳細報告書について

本サマリーは主な結果を抜粋したものです。詳細な集計データ・クロス集計・自由記述については、協会会員向けの詳細報告書をご参照ください。お問い合わせは岩手県医療ソーシャルワーカー協会までご連絡ください。